

中学

駅伝

2023.11.14

NEW

京都は南城陽が男女ともに初の全国切符！  
東京男子は全中3000m3位の出口霸迦擁する  
千寿桜堤が初V 神村学園や中能登も全国へ／  
中学駅伝

SHARE



#中学駅伝 #全中駅伝



23年全中3000m3位の出口霸迦

12月17日に行われる第31回全国中学校駅伝（滋賀・野洲）の出場権を懸けた中学駅伝の都府県大会が11月9日から13日にかけて各地で行われた。

9日に行われた鹿児島県大会では前回の全国大会で女子3位に入った神村学園が快勝。1区（3km）で瀬戸口恋空（2年）が9分44秒の区間賞で飛び出すと、その後も首位を明け渡さず12kmを40分44秒の大会新記録で2年連続2回目の出場を決めた。男子は奄美大島にある金久が初優勝を飾っている。同日の石川県大会は男女ともに中能登が制し、いずれも3年連続4回目の全国切符。2年連続で全国入賞中の男子は18kmのコースに55分11秒の好タイムで制した。

11日には8都県で予選が開催され、栃木からは男子で全国優勝経験のある三島が2位に40秒の大差をつけて快勝。東京男子では全中3000m3位の出口覇迦（3年）を擁する千寿桜堤が初Vとなり、女子は前回、前々回と全国に出場している足立十一がクラブチームの「KJR・L・足立十一」として初めての全国大会出場を決めている。

福岡県では男子が曽根、女子が浅川と全国入賞の常連校がそれぞれ優勝。愛知は女子の豊川西部が1993年以来に県大会を制し、第1回大会以来30年ぶりの全国代表に決まった。